

資 料 5
令 和 5 年 7 月 19 日
地域密着型サービス等運営委員会

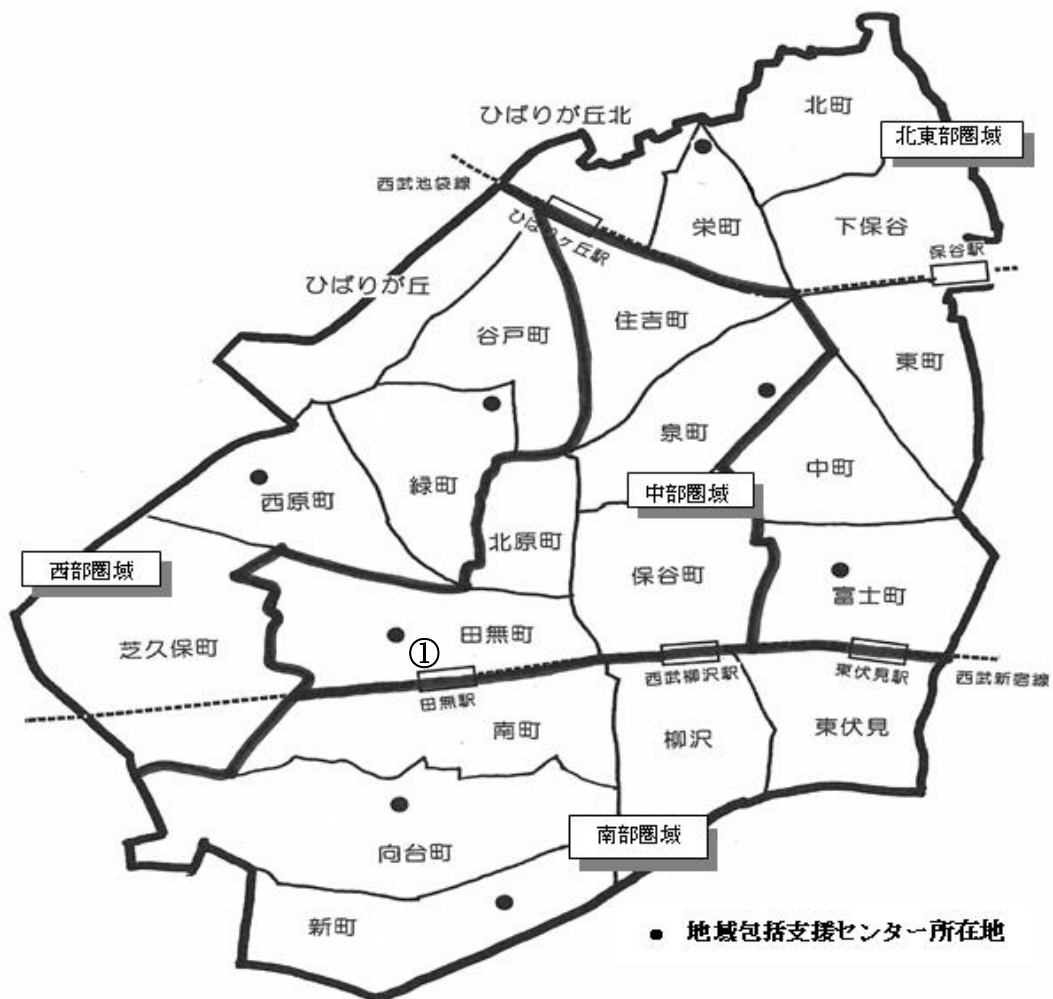
西東京市地域密着型サービス事業所に係る
指定申請等について

1 協議案件

(1) 夜間対応型訪問介護新規指定

地図NO	指定期間	施設名	圏域	所在地	法人名
①	R5.8.1～ R11.7.31	SOMPOケア 在宅老人ホーム西東京 夜間訪問介護	中部	西東京市田無町四丁目2番11号 Aビル2階	SOMPOケア株式会社

指定申請事業所位置図
○夜間対応型訪問介護



地域密着型サービス事業所の指定審査表①

指定を受けようとする事業所	SOMPOケア 在宅老人ホーム西東京 夜間訪問介護					
事業所の所在地	西東京市田無町四丁目2番11号 Aビル2階					
地域密着型サービス事業	夜間対応型訪問介護					
指定年月日・指定期間	令和5年8月1日	令和5年8月1日 ～令和11年7月31日(6年)				
申請者	SOMPOケア株式会社					
代表者の職名・氏名	代表取締役	鷺見 隆充				
主たる事務所の所在地	東京都品川区東品川四丁目12番8号					
主な併設事業	訪問介護事業所、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所 定期巡回・随時対応型訪問介護看護					
事業所の概要	管理者	和田 理江子				
		資格	介護福祉士			
	計画作成責任者	和田 理江子				
		資格	介護福祉士			
	従業者 職種 員数	職種	訪問介護員等			
			定期巡回		随時訪問	
			専従	兼務	専従	兼務
		常勤		7		7
		非常勤		3		3
		職種	オペレーター		面接相談員	
			専従	兼務	専従	兼務
		常勤		7		7
	非常勤		3		3	
	オペレーターの資格	介護福祉士				
面接相談員の資格	介護福祉士					
利用料	法定代理受領分	介護報酬告示上の額の一割・二割又は三割				
	法定代理受領分以外	介護報酬告示上の額				
運営推進会議の有無	有 ・ 無					
事業所の視察実施日	令和5年1月11日					
審査基準の適否	人員基準	設備基準	運営基準			
	適	適	適			

(2) 認知症対応型共同生活介護指定更新

地図NO	指定期間	施設名	圏域	所在地	定員	法人名
①	R5.8.1～ R11.7.31	グループホームいずみ	中部	西東京市西東京市泉町三丁目15番28号	18人	社会福祉法人悠遊

指定更新事業所位置図
○認知症対応型共同生活介護事業所



地域密着型サービス事業所の指定更新審査表①

指定更新を受けようとする事業所	グループホームいずみ				
介護保険事業所番号	1375400494				
事業所の所在地	西東京市泉町三丁目15番28号				
地域密着型サービス事業	認知症対応型共同生活介護				
	介護予防認知症対応型共同生活介護				
当初指定年月日	平成17年8月1日				
指定更新年月日・指定更新期間	令和5年8月1日	令和5年8月1日～令和11年7月31日			
申請者	社会福祉法人 悠遊				
法人代表者の職名・氏名	理事長	鈴木 礼子			
主たる事務所の所在地	西東京市泉町三丁目15番28号				
主な併設事業	通所介護、訪問介護、認知症対応型通所介護				
事業所の概要	代表者・資格	鈴木 礼子	認知症対応型サービス事業開設者研修修了		
	管理者	木村 圭子			
		資格	介護福祉士、介護支援専門員		
		研修	認知症実践者研修修了 認知症対応型サービス事業管理者研修修了 認知症実践リーダー研修修了		
	計画作成担当者	ユニット	① 表 信満	② 森田 順子	
		資格	介護福祉士	介護支援専門員、介護福祉士	
		研修	認知症実践者研修修了	認知症実践者研修修了	
	従業者 職種 員数	職種	① 介護職員	② 介護職員	
		常勤	2人 (他兼務2名)		3人 (他兼務2)
		非常勤	6人		6人
		常勤換算	7.3人		8.2人
	居室の面積	① 9室 10.6㎡ (室) ≥ 7.43㎡			
		② 9室 10.6㎡ (室) ≥ 7.43㎡			
	利用定員	18人	ユニットごとの定員① 9人 ② 9人		
	利用料	法定代理受領分	利用者負担割合に準ずる		
法定代理受領分以外		介護報酬告示上の額			
協力医療機関	知念医院	診療科名	内科		
耐火・準耐火建築物の別	耐火構造物 鉄筋コンクリート造				
実地検査日	平成29年2月22日				
稼働率(最近3カ年) ※一年の平均値	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	98.4%	98.9%	96.5%		
運営推進会議の開催状 況(最近3カ年)	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	書面配布6回	書面配布6回	書面配布3回・実開催3回		

<p>利用者の方からの声など</p>	<p>令和4年度グループホームいずみ第三者評価利用者調査より 回答：入居者18名中17名回答</p> <p>1. 総合的な評価 大変満足12名・満足3名・どちらともいえない1名・無回答1名</p> <p>2. 主な意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人をいろいろなところに連れて行き、刺激を与えてくれているので感謝している。 ・『いずみ便り』で個別の近況報告をしてもらえることも、いつも楽しみにしている。 ・行事も多く、本人は生き生きと生活できているようで家族は安心している。当事業所に入居することが出来て良かったと思っている。 ・面会に行くと、いつも穏やかな顔つきをしているので、入居以前のように一人で生活するよりグループホームで他の利用者と一緒にいるほうが、心身ともに充実しているように思う。 ・本人の生活を丁寧に支えてもらい、職員に対しては感謝の気持ちでいっぱいである。 ・職員の対応を見ていると、認知症高齢者に特有の症状や言動の特徴などを十分理解した上で、利用者本人と接してくれていることを強く感じる。 ・異変があれば、直ぐに職員が連絡してくれる。訪問時にも、当事業所の職員は誰に尋ねても私の家族の様子について即答してくれる。利用者一人ひとりの様子を全職員が良く見ていることが感じられ、安心である。 ・コロナ禍をきっかけに「家族会」が開催されなくなった。(5/28に再開) ・事業所から家族への連絡方法について、急ぎでない要件の場合には、Eメールで連絡してもらえると助かる。
<p>事業所のPRポイント</p>	<p>【ハード面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各居室にトイレを設置している（居室が一人ひとりの生活の場であること。プライバシーを守ること。感染症対策であること。） ・当事業所は1階にあり災害時の避難誘導では迅速に対応しやすい。 ・中庭でおやつを食べたり、歌レクをしたり、外庭では花や畑で野菜を育てたりと室内だけではなく、様々な活動が出来る環境にある。 <p>【ソフト面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者が「外に出たい。」と思った時に出られない（施錠されている）ことで、混乱することの方が認知症の進行に悪影響を及ぼすと考え、『鍵をかけない介護』（夜間は、防犯上施錠）を徹底している。職員は、外に出て行こうとされるご入居者がいれば一声かけ、ご本人が気持ちよく戻れるようであればホームに戻るが、いったん外に出たほうが良いと思われる時には一緒に付き添い、ご本人が納得してホームに戻る事が出来るよう対応している。頻繁に外に出られる方

	<p>の場合、どうしても一人での外出になってしまう可能性もあるため、そのような時はご家族とも相談し、GPSの携帯をしてもらうようにし、早期に発見・対応ができるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者が『看取り』の状態になられた時に、ご本人・ご家族が望まれ、医療的処置は出来ないことを了解いただいた上で『看取りケア』を実施している。ご本人の好みを把握したうえで、『食べられるだけ・飲めるだけ』のものを提供しつつ居室のみで過ごすのではなく、ご本人の体調を見ながら、出来る限りそれまでと同じように顔なじみのお仲間と共にリビングで過ごし、人との交わりを感じられるようケアしている。ご家族の面会も時間的な制約は設けず可能な限り面会に来ていただき、最期の時を共に過ごして頂けるよう工夫している。主治医ともこまめに連絡を取り合い、対応について確認しつつ、対応する職員の不安も軽減できるよう努めている。 ・コロナ禍にあっても日々の散歩は継続し、近隣住民の方々と挨拶を交わすなど、日々のちょっとした関わりを大切に『地域の中のグループホーム』であり続けるための努力をしてきた。また、地域と関わりを持つこと・入居者の生活の良い刺激になることを目的に、地域の喫茶店を貸し切り、感染症対策をとりつつ外食企画も実施して来た。5/8以降は、地域のお店に買い物に出かけたり、神代植物公園外出を実施するなど、コロナ禍以前のように活発に地域に出る活動を実施している。
<p>地域との交流で実施している内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の散歩を継続し、地域のスーパーや個人商店などに買い物に出かけ、地域の方に会った時には積極的に挨拶を交わし交流している。 ・近くにある『アスク保育園』『小規模保育園ぼむ』とはコロナ禍であっても距離をとりつつ、お互いにプレゼントを作成し交換するなど交流を継続してきた。 ・JAミニデイサービスに参加させてもらい、地域住民の方々とも交流している。 ・近隣の保谷小学校で行われた『どんと焼き』や『運動会』をご入居者と共に見学しに行き、地域の方々とも交流を図ることが出来た。 ・今年度（令和5年）は、コロナ禍以前に実施していた地域の方を招いての『納涼祭』・『餅つき会』なども再開する予定にしている。
<p>事業所で実施している研修の内容 (研修テーマ、参加率等)</p>	<p>年間で研修計画を立て実施している。</p> <p>【令和4年度の研修実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月：認知症・認知症ケア（参加率：80%） ・5月：接遇・コミュニケーション（参加率：80%） ・6月：食中毒予防（参加率：80%） 緊急時対応・てんかん（参加率：85%） ・8月：虐待・身体拘束予防（参加率：75%） ・9月：非常災害時対応（参加率：80%） 看取り・ターミナルケア（参加率：80%）

	<ul style="list-style-type: none"> ・10月：緊急時対応（参加率：75%） 感染症対策・吐しゃ物処理（参加率：80%） ・11月：医療について（参加率75%） ・12月：虐待・身体拘束予防（参加率：80%） 認知症・認知症ケア（参加率：80%） ・1月：感染症対策（参加率：70%） ・2月：認知症・認知ケア（参加率：75%） ・3月プライバシー保護と法令遵守（参加率：75%） <p>*その他、個別に＜法人内部研修＞・＜外部研修＞に積極的に参加を促している。参加後は、研修報告書を作成し、他職員への周知を図っている。</p>
<p>サービス面での専門職の関わり（具体的事例・課題） （例、医療職との連携、栄養改善、口腔機能向上等）</p>	<p>＜主治医との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各入居者の必要に応じ、月1～2回の定期往診を受けている。また、入居前からの病院受診を継続している入居者も4名いる。往診医が主治医となっている場合は、入居者の状態変化についてこまめに連絡を取り合い連携をとることが出来ている。臨時の往診なども適宜、対応して下さっている。通院受診を継続されている方も、現在は体調が落ち着いているため問題はないが、身体的状況が変化したり、認知症の面で進行した際に、どこまでこまめに連携を図ることが出来るかが不確定な状態。今後は、ご家族対応で通院されている場合、状態変化があった場合にどこまで連携を図ることが出来るか具体的に確認をしていく必要がある。 <p>＜薬局との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回全員分の薬を納品してもらっており、納品の際に薬が変更になった時など細かくアドバイスをもらい、服用方法についても相談し具体的にアドバイスをもらう等、大変助かっている。 <p>＜福祉用具との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にご入居者のパットなどを納品してもらっている福祉用具の事業者には、褥瘡が出来かかった場合に適切なマットレスやクッションなどを紹介してもらい、ご家族とも確認をしながら使用し、早期に対応することで褥瘡の悪化を防ぐことが出来ている。 <p>＜訪問マッサージ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、4名のご入居者が訪問マッサージを利用。マッサージ対応時の入居者の状態等の報告を受け、体調観察の一助になっている。ご入居者自身も、マッサージ師の方と顔なじみの関係にあり、職印とは違った関わりを持つことで良い刺激になっている。 <p>＜訪問歯科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各入居者の必要に応じ月1～2回の定期往診を受けている。口腔ケアを基本としつつ、必要に応じて治療を実施。ご入居者の口腔ケアについてのアドバイスをもらう等、日々のケアに生かすことが出来ている。

<p>事業展開を進めていく うえでの課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流について細々と継続はしてきたが、コロナ禍の3年の間にこれまで当たり前に行ってきた多くの地域交流の企画やボランティアの受け入れが途絶えてしまっていた。職員によっては、そういったものを全く知らない職員もいる中で、ノウハウを教えながら、各職員が地域とのつながりの重要性を理解し自ら動くことの出来る職員を育成し、全体の体制を整えていくことが必要となっている。 ・コロナ禍でボランティアの受け入れを中止していた中で、ボランティアの方自身が高齢となりボランティア継続が難しくなっている。ボランティア自身の負担を軽減し再開してもらえよう働きかけると共に、新規ボランティアの開拓が必要。 ・コロナ禍で面会を制限していたこともあり、面会再開後も以前のように家族の面会が増えてこない。一定期間会えなかったことで、家族との距離が出来てしまっているようにも感じられる。これまでも『いずみ便り』で定期的にご入居者の状況は報告してきたが、5月より『家族会』を再開した。家族にも積極的に関わってもらい、共にご入居者を支える者となることが出来るよう職員との関係作りも含め、アプローチをしていく必要がある。
------------------------------	---

2 報告案件

(1) 地域密着型通所介護指定廃止

NO	廃止日	事業所名	圏域	所在地	定員 (人)	法人名
①	R5.6.30	りんごの歌 東伏見	南部	西東京市東伏見五丁目7番13号	10	株式会社ウェルリソース

指定廃止事業所位置図

○地域密着型通所介護

